

調査から 感じとるもの

南国沖繩も一二月ともなれば季節は冬、みなさんは冬の気配をどう感じ取っていますか？クリスマスツリー、肉まんの味、北風の音など一人ひとりの感覚は違うと思います。

町史の仕事に携わっていると、町内各字に出向き、人々とふれあうたびに、感覚がとぎすまされていくように感じます。

野外調査では自然の力を体感したり、ハブの気配に全神経を注ぎますし、人々からお話を伺うたびに、ひとりの人間としての感情がこみ上げて来ます。今回はちよっと、調査で感じたことを書いてみますね。

先日、一通り調査が済み雑談をしていたときのこと―

「日本もやがて徴兵制度がくるよー。」

このひとことから、出席者のみなさんが沖繩戦を体験し、ここ最近の社会の動きにすごく敏感に反応していることがわかりました。

自らの戦争（徴兵）体

験や戦時中の社会を生きてきた経験を通して、現代社会の情勢をこと細かに語るみなさんの横顔に圧倒。と同時に、世の中を憂えてはいても、何の議論も行動もしていない私は隅っこで小さくなるばかり。

そんな私を察するかのように、「今の若い人はこんな話しはしないでしょー。」とスバリ（そんなに若くもないのだけだよね）。

しかも、このような話を聞いたのは1ヶ所だけではありませんでした。その後も他の字へ調査に向うと、戦争を体験された方々が同じようなことを口にされるのです。その体験は一人ひとり違ったものであり、それぞれの感情が入り交じっているともいえませんが、その根底には「もう戦争は起こしてはならない」という強い思いがあるのだと感じました。

「歴史は繰り返す」という言葉もありますが、過去の出来事を「それは昔の話」と片づけることはできないのでは、と思うのです。それが現在、



さらには未来にもつながっているといえるのではないのでしょうか。

町史としても『西原町史』『戦時体験記録』はすでに発刊されていますが、今後も戦時中の写真や米軍・旧日本軍の残した戦争関係資料などの収集・編集を継続し、みなさんに知ってもらうことで、どんな現代、そして未来を築きあげていくのか考えていただければ幸いです。

地域に出向き人々と出会うことで、感じることはたくさんあります。知識や資料を得ることはもちろんですが、五感で感じることに、まるで自身の人間性を確認しているかのように一喜一憂する今日この頃です。

これからも、調査で多くのことを感じ取っていききたいと思います。